

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 136 号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2004.06.17 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_index.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm)

\*\*\*\*\*発行部数 1618 部\*\*\*\*\*

---

□ 目 次 □-----

<今週の提言>

「木の時代」というけれど—『巻き枯らし間伐』はいかが 松坂正次郎

<読者の声>松山さんから：丹羽さんから

<旬を食べる—野良からの便り・4> “新ジャガ” 小泉浩郎

<日本たまご事情>親子井 愛鶏園・齋藤富士雄

<79歳の意見>戦争への疑問はあったか 原田 勉

<山崎農業研究所情報>

◇山崎農研・日仏農学会合同研究会（第 112 回 定例研究会）速報（その 2）

……最近のフランス農業政策の動向とわが国への提言：

是永東彦氏（東京農大教授）

<中学生に環境問題をどう教えるか？・6>

「土の化学式」を教えるには・・・？ 環境クラブ・増山博康

<丹羽敏明の戦争体験>36 “こぼれ話”（その 3）

<編集後記・同人の近況報告>6月3日～6月16日

---

<今週の提言> 「木の時代」というけれど—『巻き枯らし間伐』はいかが

---

先ごろ政府が発表した「森林林業白書」は、国産材をふくめ、材木の使用量が減少している中で、地球温暖化などで環境の荒廃や人間の健康障害が広がり、木材の価値や森林整備の必要性があらためて問い直され、「新たな木の時代」を創造することが求められていると指摘している。しかし、森林所有者の 73% は 1～5 ha の零細林家で、これには多くの不在地主が含まれている。このため栽植も進まず、とくに間伐の放置が著しい。これが森林の癌である。

間伐をしてもその場に捨て、下刈りもやらないので、山里までもがイノシシ

やサルの棲み家になっている。見るに見かねた富山県立技術短大教授の足立原貫先生が昭和49年に学生たちに呼びかけ、夏休みを利用した「草刈り十字軍」を立ち上げ、今日まで続けている。一方、横浜国立大・環境科学研究センターの宮脇昭センター長は、日本古来の「鎮守の森」成立の史実をもとに、世界各地に「千年の森」づくりを推進されている。

そうした中で福井県の鋸谷（おがや）茂さんの『巻き枯らし間伐』法が話題を呼んでいる。鋸谷方式では、立木のまま皮を剥ぎとり、立木のまま枯らしてしまふ。幹にチェーンソーの刃を1cm以上のも食い込ませて一回りし、それを20cm間隔で3本ぐらい切れ目を入れる。その部分の皮を剥ぎ取ると、水が上がらないので枯れてしまふのだ。

この方法により林内に空間が生まれて多くの小鳥や小動物の棲み家になり、植生が回復し、保水力が高まる。あとに残した木は樹高の半分まで枝打ちするだけ。“間伐の悩み解消法”である。

松坂 正次郎

山崎農業研究所会員、「農政と共済」コラムニスト

y.noken@taiyo-c.co.jp

#### 【参考】

鋸谷茂・大内正伸共著

『図解 これならできる山づくり 人工林再生の新しいやり方』

発行：農文協 価格：¥1,950

<http://www.ruralnet.or.jp/books/2003/54002127.htm>

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4540021273/>

共著者である大内正伸さんのHP。鋸谷式間伐法の情報が充実している

<http://tamarin.cside21.com/index.html#Anchor206721>

---

<読者の声>

---

=====  
●06/03 松山善之助さんから：農林水産省「消費者の部屋」にユニークな農業機械が展示されました

6月7日から11日、消費者の部屋につきのような農業機械が展示されました。滋賀県では近畿の水瓶「琵琶湖」の水質保全に気配りし、環境こだわり農業推進条例を制定し安心な農産物を消費者に供給するとともに環境と調和のとれた農業を展開しようとしている。全国に先駆けて環境農業直接支払い制度をスタートした。

啓蒙の一環として、このほど上記のように農林水産省消費者の部屋に環境こだわり農業特別展示を行い、こだわり農産物だけでなく、生産過程に使用する下記の農業機械を展示した。農業機械が消費者の部屋に展示されるのは久々である。

#### 1、水稻種子温湯消毒装置

稲熱病やばかなえ病などの種子伝染性病害の病原を60℃のお湯にもみを10分間つけることにより防ぐ装置

#### 2、米ぬかペレット製造装置

米ぬかを水田に散布して雑草を殺す議綬があるが、粉状のぬかは散布が大変で嫌われる。ペレットに加工すれば容易に散布できるのでペレットを製造する装置

これらはすでに有機農家や心ある大型農家、農薬汚染された排水を流したくない育苗センターなどに導入されはじめた。

松山 善之助

近畿農政局大豆消費拡大調査委員

#### 【参考】

農林水産省「消費者の部屋」

<http://www.maff.go.jp/soshiki/syokuhin/heya/HEYA.html>

(注：WEBに記事内容は掲載されていません。)

滋賀県環境こだわり農業の週（6月7日～11日）問い合わせ先

農林水産省「消費者の部屋」Tel 03-3591-6529

滋賀県農政水産部環境こだわり農業課 Tel 077-528-3892

-----

●06/14 丹羽さんから：

135 号の配信有り難うございました。

NHKの岸慎治さんへ

岡山への御栄転おめでとうございます。落ち着かれましたらお便り下さい。それからお送り下さいました資料一揃いと記念品確かに受領致しました。有り難うございました。

私が岡山に初めて行ったのは40年以上も前になります。当時昭和天皇の御息女厚子様(?)が御降下になられた池田さん(お名前は忘れまして)が経営しておられた動物園(牧場?)へ、地元の人案内で取材と称して訪問、図々しくも一緒に写真を撮らせた頂いた思い出があります。また、岡山には戦友が二人(二人とも元鉄道員)おりましたが、いずれも故人になってしまいました。生存中ならば会って頂けば、シンガポールでの捕虜時代のことをお話し出来たかも知れません。

元気で御活躍のほど祈っております。

---

<旬を食べる一野良からの便り・4> “新ジャガ”

---

旬の新ジャガは、2種類ある。1つは、探り掘りの新ジャガ。生育途中のジャガイモの根元にそっと手を入れ、ピンポン球ほどに育った若いジャガイモを探りあてる。根を痛めないように注意を集中して指先だけで探る。一株から2〜3個が限度。いつ探るか、その頃合いが難しい。真っ白な肌、薄皮は触るだけでもくるとむける。この頃が旬の「ハチク(真竹)」との取り合わせが良い。ワカメの味噌汁にも最適である。正月早々奄美諸島から出荷される「春一番(商標)」は、この若いジャガイモである。

もう1つの新ジャガは、葉や茎が黄色になり、しっかり成熟した初掘りのジャガイモ。粉ふきジャガと呼ばれる。塩を手秤で加えて水煮、箸が通ったところで湯を捨て、余熱で表面を乾かす。皮の表面に塩の結晶がつき、大きく亀裂した皮の間はから白い粉がふく。ホクホクとして美味しい。そのままでも、ちょっと醤油をたらしてもよい。

ジャガイモの水煮は、包丁で皮をむいてから煮る地方と、煮てから皮をむく地方があると聞く。皮の付近には養分が集まっているから、皮をむくとたとえばたんぱく質の4分の1ちかくが捨てられてしまうという。

さて、主食である米の消費が毎年減っている。ついに昨年は1人年間 60kg を割ってしまった。外国ではジャガイモを主食としているところが多い。アイルランド、ドイツ、ポーランド、スペイン等は年間 100kg 以上食べている。アメリカでは 57kg、日本の米並だ。その日本は 14kg、多いか少ないかの評価は別として、諸外国は主食を大事にし、主食を中心に食卓が賑わっている様子がうかがわれる。

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.noken@taiyo-c.co.jp

---

<日本たまご事情>親子丼

---

オムレツライスを食べ歩く決心をしたと仲間に話したら、「日本の傑作、親子丼を忘れちゃいませんか」とクレームがついた。なるほどオムレツライスも日本のオリジナルだが、親子丼も日本の傑作だ。

先日、旧友宮下先生から「秋田県角館に美味しい親子丼あり」という知らせがあり、角館市内の「さくら亭」で落ち合った。秋田県の誇る比内鶏の肉と卵をベースにした親子丼であった。ニワトリ博士の得猪さんが紹介されたように、東京日本橋人形町の「玉ひで」が親子丼の元祖といわれる、この店は江戸時代からシャモ鍋の専門店であり、五代目のオカミさんが明治中期、親子丼を作り出し人気をとり、現在も続いている。

角館市の「さくら亭」が人形町の「玉ひで」の流れを汲む店であるのか分らないが、いずれもご飯に乗せられた具の卵は半熟のトロトロ状態でシャモ肉系の地鶏を使用しているのも共通している。美味さは両者甲乙つけがたしたが、値段は東京人形町が 800 円、角館が 1500 円で東京の勝ち。

オムレツライスも親子丼にしても、美味しい店に共通しているのは、卵の調理具合につきる、半熟のトロトロ状態をタイミング良く出してくれる、それにはそこに腕のしっかりした調理人がいるに違いない。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

---

<79歳の意見>戦争への疑問はあったか？

---

6月6日、私は戦時体験を証言する者として下記の会に参加して、つくづく考えた。戦時中、私は戦争に疑問を感じていたか、ということである。

地元の自由学園

<http://www.jiyu.ac.jp/>

で行われた「学徒勤労働員と中島飛行機に勤務していた体験を聞く会」である（主催者・武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会）。

1944（昭和19）年11月24日、東京大空襲が始まったのは武蔵野の中島飛行機工場からだった。米軍大型爆撃機B29が88機で航空発動機（エンジン）を製作する工場を集中的に爆撃した。この第1回空襲で死者78名、負傷者80余名を出した。

当時、中島飛行機武蔵製作所には、労働者・徴用工・勤労働員学徒など5万人が働いていた。12月3日の第2回空襲では、動員学徒17名が爆死した。その後10数回の空襲で死者220名、負傷者226名の犠牲者を出した。

6月6日に証言された自由学園の方がたも12月3日に爆死された同級生の様子を語られ、思わず涙を流しました。私は、エンジンテストをしていた田無試運転工場の体験を話したが、当時19歳で戦争協力したことに誇りすら持っていた。

詳しくは、ホームページ「戦争を語り継ぐ 4、5」参照。

<http://nazuna.com/tom/war/04shiuntenkou.html>

<http://nazuna.com/tom/war/05musahinoseisakushu.html>

今考えると、戦争はなぜ起こったのか、戦争とはどんなに残酷なものか疑問を持たずにいたことである。中島飛行機も当時月産1500台というエンジン生産をしていたが、空襲後はほとんど壊滅して敗戦を迎えた。

私が戦争は間違っていると知ったのは、理不尽な軍隊生活を経験し、空襲の恐怖を体験した後であった。いまさらであるが、当時の戦争、現在の戦争、これからの戦争の残酷さ、愚かしさをもっと知って貰いたい。

残された人生をそこに置きたい。証言を終えて、そう反省したことが収穫であった。

今度の国会で有事法制が通過したが、いまこそ、日米軍事同盟の戦時体制をいかに阻止するか、来る参議院選挙にその態度を示したいと思う。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

tom@nazuna.com

<http://nazuna.com/tom/>

---

<山崎農業研究所情報>

---

◇山崎農研・日仏農学会合同研究会（第 112 回 定例研究会）速報（その 2）

2004 年 5 月 22 日 太陽コンサルタンツ会議室 司会 大山 勝夫氏

〔研究発表 2〕

最近のフランス農業政策の動向とわが国への提言：

是永東彦氏（東京農大教授）

#### 1. フランス農業の特色と変貌

フランス農政はEUの農政と深い関係があるので相互の状況の把握が必要である。フランスではアフリカ植民地時代から農業問題に取り組んできただけに、その農業史が整理されている。人が定住→集落→焼き畑農法→国家経済発展という農学の根底には『経済は環境の中にある』という考えが見られる。これは焼き畑農業の中にも現われている。

農業経営の動向をみると、フランスはEUの中では変化が激しい。農業従事者人口は1970年と比べ2000年では3分の1に減少した。専業も減少したが、規模拡大して10ha以上の農家数は増えた。兼業農家20%は変化していない。自給率は60年代まではマイナスであったが、80年代からは恒常的にプラスとなり、輸出型に転じた。農業集約度は高くない。条件不利地域は東南部の山岳地帯に多い。

環境汚染地域はブルターニュ、ノルマンジー、シャンパーニュ地域などで窒素汚染が目立ち、肥料の流出が問題となっている。政府はこれに対し、窒素流出防止を義務づけており、糞尿処理には補助金を出している。EU全体から見るとフランスでの窒素の地下水汚染はまだよいほうと言われているが、地下水位が低い（100m程度）ので今後はわからない。

## 2. フランスの農業政策

フランスの農業政策として1960年農業基本法を見ると、当時の農家の零細性に基く技術水準の遅れへの対応の必要性と同時に1950年代の経済成長から解決の機運が高まった。農業市場での競争力強化への関心も高まった。またその理念としては高齢農業者の離農と土地の流動化の促進、農地市場への公的介入制度の促進、適正規模の農業経営者の育成、構造規制、農業経営集団の制度化、労働配分、収益配分の明確化と生活条件の改善＝余暇の活用などが重点とされた。また農政の外部条件として共通農業政策（CAP）があった。その機能、役割が増大したが、一方、CAPの中で輸出を伸ばしていけるという条件もあった。

1999年の基本法ではグローバリゼーションの中での農業の多面的機能が重視された。フランス農業の多面的機能とは『経済的、環境的、社会的機能に及ぼすはたらき』であり、わが国の解釈とは異なる。CTE/CAD制度の導入に、これらがうたわれている。CTEとは経営に関する国土契約、CADとは持続農業契約制度のことであり、これらの導入が特徴となった。CTEでは国土の環境保全には国が農家と契約し、一定の基準を保つことを農業生産者に義務づけている。国はこれを航空写真などで評価し、時には契約補助金を返納させることもできる。個々の農家が環境推進の義務を負うリーダーとなっている。

2003年の改革ではデカップリングが特徴である。品目部門別に補助内容が異なるが、30～40%水準の補助がある。いままでのCTE（経営に関する国土契約）制度の弱点を改善すると同時にCAD（持続農業契約制度）の具体的な法制化も進んだ。CADには環境に関する事項をふくみ、社会経済関係も希望によって含ませることができる。標準契約では(1)環境関係としては有機農業への転換支援、家畜種の保全のほか生物多様性、土壌保全、水質、大気、景観、文化資産の保全。(2)社会経済関係としては農業活動の多角化、高品質化、雇用拡大の推進。契約は5年。契約者条件は18歳以上、引退前の農業経営者であること。

農業経営への補助金制度については単一支払制度の導入（価格市場政策として直接支、払いデカップリング、クロスコンプライアンスとして環境、動物愛護、人、動植物の安全、モジュレーションとして支払い額の調整、補助金支払いの減額）などがある。補助金の流れはEU→国→地域面積割をとっている。



### 3. まとめ

フランスはEUの中にあるためもあって、価格市場政策が特徴であり、直接支払制度の中に生産調整や環境問題を取り込んでいる。条件不利地域対策および農業と同時に農業起源の環境問題にも配慮している。全体的に予算の拡大傾向はあるが、環境対策が大きな比重を占めている。

### 4. 日本の農政へのメッセージ

- (1)国際潮流としてデカップリングの品目横断的政策の条件を検討すること。
  - (2)担い手政策としての農業法人の位置づけを明確化すること。
  - (3)条件不利地政策の検討をおこなう、そのさい農業者の権利と義務を明確にすることを含むこと。
  - (4)環境・資源政策の工夫として、契約支払制度を検討すること。
  - (5)農政における地方分権、小地域レベルにおけるポリシーミックスを検討すること（例：環境政策、構造改善、品質改善の連携政策など）
- （文責：安富・松坂）

※詳細は所報『耕 102 号』に掲載予定。

所報『耕』の申し込み先（定価 1,000 円）

160-0004 東京都新宿区四谷 3-5 太陽コンサルタンツ内 小泉浩郎

電話 03-3357-5916 FAX 03-2257-3660

k.koizumi@tayo-co.jp

---

<中学生に環境問題をどう教えるか?・6>

「土の化学式」を教えるには・・・? 環境クラブ・増山博康

---

6月6日は、川口市のボランティア見本市で、環境クラブでは、「土を調べる実験教室」を開催しました。雨の中でしたが、大勢の来場者があり、クイズラリーの紙を持って、子供達が環境クラブのブースにも続々とききました。

ブースにきた子供達に「土と砂の違い」を聞いてみると、「土は濡れているが、砂は乾いている」「土はベトベトしているが、砂はサラサラ」「色が違う」「土は固いが砂は柔らかい」「土はカタマリだが、砂は一粒一粒」と言う答えが返ってきました。後、土の方が栄養があるという言い方をした子供が多かった。（固まっているから、その中にいろいろある、栄養もある式の発想が

多かった)

大人は、砂と土の粒子の大きさの違いを言う人が何人かいて、これは子供にはあまり見られない特徴でした。ただし、土の方が粒子が大きいと考える人と砂の方が大きいと言う人に分かれました。土の方が粒子が大きいと答えた人は、自分で土や砂をふるった時、砂は目を通過するが、土はそうではないと言う体験を根拠にしている場合があります。後、土も砂も「 $\text{SiO}_2$  (二酸化ケイソ)

だ」と言う言い方をした大人の人がいました。

これらのことから感じたのは、「土の団粒構造」について、大人が「情報」、「知識」としてもあまり頭がないこと。子供達の素朴な認識は、「団粒構造」を理解していってもらうのに役立つきっかけとしてはいいし、上手に誘導すれば貴重な理科教育の題材となる。しかし、残念ながら、適切な誘導が現在の教育現場では行われていません。

「水」や「空気」に比べて、「土の構造」については、きちんとした情報提供がなされていない。この結果、大人になればなるほど、偏った認識を持つようになる。特に「土も砂も  $\text{SiO}_2$ 」と言う言い方は、間違った「化学式万能論」で、土の化学的性質を考える場合、「化学式」だけで論じるのはかえって問題があり、「団粒構造」の理解ぬきには考えられない。

そして、その偏った知識で「酸性雨などによる土の酸性化」問題について理解しようとするため、「白紙」の状態の子供達よりかえって大人の方が、環境問題に対する正確な理解が出来ないと言う構造が浮かび上がりました。

子供達は素直であって、「土は濡れているが、砂は乾いている」という命題をめぐって、小学四年生と中学三年生が「砂を濡らして、黒くなった状態は土と言えるかどうか」で 20 分近く議論していたのは、興味深い展開でした。

「団粒構造」という言葉は知らなくても、こうした議論を通じて、子供達の中に、「土」は「砂」とは違う何かがあり、その何かは「土の酸性化」を遅くする、「砂」はすぐに酸性化してしまうと言う認識が何となく芽生えるわけです。

環境クラブとしても 450 坪の実験農場を設けています。従来、農業体験や自然体験と、例えば、「土」の化学や物理を学ぶ理科教育を結合していくことは

出来ないか、基礎理論が弱いといわれる我が国ですが、「土」の科学を学んだ子供達の中から、従来とは違った発想で、将来の社会を担う科学技術者が生まれてくるのではないか？

新しい教育プログラム開発を環境クラブとしても目指していきたいと感じました。

環境クラブ 増山 博康

<http://www.ecoclub.co.jp>

---

<丹羽敏明の戦争体験> 36 “こぼれ話” (その3)

---

○ドリアン=ある日、作業に出るトラックに便乗して近くの通信分隊に出掛けた。途中ドリアンを積んだ現地人のトラックと行きあつた。するとそのトラックを停車をさせて、積んであるドリアンをこちらの荷台に移し始めた。ドリアンは高価な果物だと言われている。1個いくらぐらいするのか知らないが、現地人にとっては貴重な財産のはず。それを無情にも分捕るのだ。「勘弁してくれ」と泣き叫んでいるのに、日本兵は止めない。この道は通称ドリアン街道と言われ、収穫したドリアンを市場へ運んでいるらしい。7-8個のドリアンを強奪したころ、ようやく解放した。ドリアンは臭いがきついので好き嫌いがあるが、果物の王様と言われるくらいで食べ馴れるとこんな美味しいものはない。兵舎で食べると兵舎中に臭いが蔓延するので、もっぱら外で現地人から強奪して食べているらしい。「少しばかり頂いただけだ」と古参兵はうそぶいていたが、初年兵の私は初めて見た日本兵の横暴さに憤りを覚えた。

○慰安所=街中のある場所に、日本兵が列をなしている。見ると古参兵ばかりのようだ。ここが慰安所だという。慰安婦の多くはインドネシア人だそうだ。中にはインド人もいるとか。日本人と朝鮮人の慰安婦は高級将校専用で別に施設が設置されているらしい。われわれ初年兵は食欲の方が優先で、性欲どころではなかった。一人が慰安婦の居室から出てくると、休む間もなく一人が入って行く、そして次の者はズボンをずり下げてげ待っている。旅の恥はかき捨てというが、見栄も外聞もかなぐり捨てた本能丸出しの情景に、これが皇軍の真の姿かと情けなかった。私は初年兵のまま終戦になったので慰安所の様子を知ることにはなかったが、女性の健康はどうなっているのかと心配だった。後年、慰安婦問題がかしましくなったが、慰安婦を強制連行してきたのか、現地徴用

したのか判らないが、慰安婦の存在を否定することは出来ない。〈おわり〉

長い間、駄文にお付き合い下さって感謝感激です。途中何度か根がつつかなく挫折しかけたこともありましたが、長くもない余生だから最後まで仕上げないと後悔するとの思いがつのり、最終段階にまでこぎ着けることが出来ました。『電子耕』のスタッフの皆さんのお陰です。これですっきりしました。有り難うございました。『電子耕』はこれからも愛読させていただきます。

---

<編集後記・同人の近況報告> (5月20日～6月2日)

---

原田 勉から：

クラブツーリズム社 (近畿日本ツーリストから 6/1 に独立)

<http://www.club-t.com/>

のシニア層を対象にした旅行通販誌「旅の友」に私の記事が掲載されました。

私のホームページを見ての取材依頼でした。

第二の人生を積極的に歩んでいる人取材する企画「悠々シニア」という連載でカラー見開き2頁、大小5枚の写真入りです。

「旅の友」2004年7月号 10～11ページ

巻頭インタビュー もっと自由に、もっと楽しく「悠ゆうシニアライフ」

メールマガジンを発信する原田勉さん

「世代を超えて広がる交流 パソコンが人生を変えた」

- ・老いの手習い、今からでも遅くはない！
- ・がんと闘い。読者からの声が励みに

「メールマガジンの楽しみ方」を読んだ方には特に新しいことは書いてませんが、近影が写っています。

公称総発行部数は380万だそうです。無料通販誌といえども大した数です。

さっそく読者からメールが来ました。

58歳でワープロを初めてそのうちワープロでパソコン通信 (インターネット以前の通信手段) をやっていた今に至った74歳の主婦の方からのメールでし

た。私なんぞよりずっとベテランです。

「原田先生はお体がお悪いとの事でございますが、お写真とても若々しくて輝いていらっしゃいますね。パソコンパワーでございましょうか♪、、、。

今日は旅の友を拝見して、パソコンで人生を楽しんでいらっしゃる同年代の方のコメントを読ませて頂まして、とても、嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。。。

どうぞ、お元気で楽しい日々をお過ごしくださいませ。」

お礼と「目を大切に」と返信してもらいました。

「旅の友」はクラブツーリズムの国内、海外のツアー情報、各種クラブ活動、旅に関わる楽しい読み物を満載した旅の情報誌で、明るい老後とは何ぞやという取り組みも行っているそうです。8割が旅行カタログです。一般には販売されていません。

「旅の友」の送付に関するお問い合わせは、

[http://www.club-t.com/tabi\\_question/main.asp](http://www.club-t.com/tabi_question/main.asp)

または、03-5323-6766

\*個人情報を登録して無料会員になると4カ月分送付されてくるそうです。

(その後、この雑誌から旅行をするとその後5年間送付されるのだそうです。)

今から申し込んでも7月号は貰えるそうです。

すっかり宣伝してしまいました(笑)

旅行といえば、農工大の後輩の南剛一郎君(工学部卒:現システム・ダイナミックス社長)が、現在インターネット専門の旅行業でたいへんがんばっています。ヤフージャパンで、「格安国内旅行」で検索した結果の「ページとの一致」ではトップに来るそうですから人気があるのですね。

★格安国内旅行ランキング

[Air-no1.com](http://www.air-no1.com) (エアーナンバーワンドットコム)

<http://www.air-no1.com/>

息子も手伝っていますので是非応援よろしく御願います。

来週は近所の公民館から取材を受ける予定です。

次号でご報告させていただこうと思っています。

(\*この項、文責：原田太郎)

---

わが国の終戦直後、子供達には、1枚のチョコレートで鬼畜米兵が、親切な隣のお兄ちゃんになっていた。それをみて竹槍玉砕を覚悟していたお母さんたちから、遠巻きながら笑みがもれた。みんな同じ人間なのだ。何のために憎しみあったのだろう。

天皇の玉音放送に涙を流した大人たちにとっては、耐えがたい光景であったろうが、1枚のチョコレート、1杯の粉ミルク、1個のコッペパンから、子どもたちは、豊さや自由や文明そして平和に夢を膨らました。

イラクの戦闘に巻き込まれて負傷したモハマド・ハイサム・サレハ君(10)が、来日して目の手術をした。「イラクには僕みたいな子が、いっぱいいる」。その子たちに明日への夢を抱かせるのが本当の人道支援のような気がする  
(山崎農業研究所事務局長・小泉浩郎)

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

[y.noken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

---

次回 137号の締め切りは6月28日、発行は7月1日の予定です。

最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html)

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 136 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag2.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html)

2004.06.17 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*